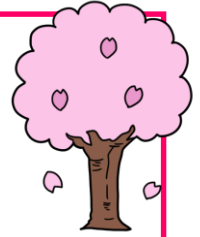




Design



～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟“彩り”・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌Design号外11号です。表面は、“彩り”で受け入れした事例の紹介です。裏面は、地域の皆様から頂戴したご要望・ご意見とそれらに対する改善策の報告①です。（地域医療連携室 室長 南出 弦）

地域包括ケア病棟“彩り”で受け入れした事例の紹介（第30回）

～嚥下機能評価目的で受け入れしました～



介護施設に入所中のパーキンソン病の患者さん。施設では誤嚥予防として柔らかいソフト食を食べておられました。そのため、施設内での季節のイベント時にはケーキを他の皆さんと一緒に食べられない状況でした。この度、「普通食を食べたい（特に皆と一緒にケーキやパンを食べたい）」という思いがあり、地域包括ケア病棟“彩り”でのご入院を希望されました。

入院後、嚥下内視鏡検査（VE）を実施しました。検査の結果、2cmきざみの軟菜食やクリーム多めのケーキ、柔らかいパンであれば、なんとか嚥下できるとのことでした（ただし、施設復帰後には必ず義歯の調整を行うことが条件です）。退院前には、ご本人とご家族・施設職員の方を交えてカンファレンスを行い、VEの結果や今後の食形態について情報提供をしました。

食事は日々の楽しみであり、少しでも患者さんの生活の質が高まるお手伝いが出来たことを大変嬉しく思いました。（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 中野 明子）

*

VEの結果、ご本人が希望されていた形態の嚥下がなんとか可能でしたので、義歯調整を条件に退院していただきました。やっと念願の「パン」を食べることができて、検査後、毎朝すてきな笑顔をみることができたと同時に、義歯の大切さもご理解いただけてよかったです。

（リハビリテーション科 言語聴覚士 草野 由紀）



嚥下内視鏡検査（VE）について

鼻腔から、細い内視鏡を入れて実際に食べている様子を観察します。カメラで観察をしますので、検査に使用する食事は実際に食べている食形態や、嚥下機能に合わせて用意した食形態となります。口腔内の粘膜は赤いので、食べ物によっては食用色素（緑色）を使用させていただきます。所要時間は、準備などを含めて40分程度です。検査は病室で実施しますので移動をする必要はありません。入院には、1週間コース、2週間コースがあります。

*

嚥下評価目的入院の詳細は、「山城ケア病棟」と検索して頂き、「摂食嚥下機能評価目的入院のお知らせ」をご覧ください。問い合わせ先：0774-73-1818（担当：中野・中嶋）

地域の皆様から頂戴したご意見・ご要望について その①

3月より、地域のケアマネジャーの皆様や訪問看護ステーションの皆様のところへ訪問させて頂いていますが、その際に頂戴したご意見・ご要望（一部）と改善策をお知らせします。

（地域医療連携室 主任 中嶋 庸介）

*

○ レスパイト入院期間中も、リハビリを実施して欲しい。

ご入院前の在宅生活において、介護保険のリハビリサービス（訪問リハビリ、通所リハビリなど）を受けておられる患者様は、ご希望があればレスパイト入院期間中に機能維持を目的としたリハビリを実施させて頂きます。また、在宅生活においてリハビリサービスを受けておられない患者様は、集団リハビリや病棟看護師によるレクリエーションなどにより機能維持を図ります。

（リハビリ科 課長 岡村 孝文）

○ 介護者の急な入院に伴う緊急のレスパイト入院をお願いしたい。

これまでも可能な限り、院内調整を行い、緊急のレスパイト入院の受け入れをさせて頂いています。今後も引き続き、皆様のご要望に対し、迅速にお応えできるよう、つとめてまいります。お気軽にお問い合わせ下さい。

（地域医療連携室 ソーシャルワーカー 中野 明子）

地域医療連携室より

～ Getting Better ～

患者さんが安心してご自宅に退院して頂けるよう、地域包括ケア病棟“彩り”では退院支援に力を入れています。まず、“彩り”入院後、速やかに院内の関係する部署（医師、看護師、リハビリ、MSWなど）でカンファレンスを実施し、治療内容や方向性について情報共有します。次に、週1回の頻度で継続カンファレンスを実施し、方向性に変更がないか、確認します。退院先がご自宅の場合には、必要に応じて担当ケアマネジャーに連絡し、現状の治療内容やADLなどについてお伝えし、情報共有を図っています。そして、退院前カンファレンスです。日程調整が難しく、実際には参加して頂くことが難しいのですが、退院前カンファレンスには、在宅医の先生方にお声かけするよう心がけています。

先日の午後、ソーシャルワーカーが個々に受け持っている患者さんの退院前カンファレンスが同じ時間帯に予定されていたこともあり、立ち替わり入れ替わり、数人のケアマネジャーや訪問看護師の方などが“彩り”にいられていました。カンファレンスの合間には、ケアマネジャー同士で情報交換されたり、訪問看護師の方が病棟看護師と話をされていたりと、大変活気づいていて、病棟でカルテ入力をしていた私には、“とても良い感じ”に映りました。当然のことながら、単にカンファレンスの数が多ければそれで良い、というものではなく、内容（質）を高める工夫はしなければなりません。今後も、地域の皆さんと、この“とても良い感じ”を継続していきたいと思っています。（地域医療連携室 室長 南出 弦）